

基本方針 生産性の向上

重点戦略 **チャネル戦略・IT戦略**

「スマホバンキングにおける非来店サービスの拡充」や「データ利活用の高度化」について、全行をあげて段階的に取り組んでいくことで、新たな顧客価値の提供や生産性の向上を図っていきます。

店舗に代わるお客さま窓口へ

百五銀行スマホバンキングは、2019年11月のサービス開始から3年を迎えました。今後もスマホで完結する、新たなライフスタイルを提案していきます。さらに、UI/UX*を向上し、幅広い世代でご利用いただけるサービスの構築をめざし、銀行取引が「いつでも、どこでも、かんたんに」体感できるアプリを提供していきます。

* UI: ユーザーインターフェイス(ユーザー接点) UX: ユーザーエクスペリエンス(ユーザー体験)



アプリ機能を他金融機関へ販売開始

- スマホバンキングアプリを、BIPROGY株式会社(アプリ開発支援)の協力のもと、他金融機関に向けて販売します。
- パソコンではなくスマホアプリでの非対面チャネル対応を検討している金融機関が増えています。新たなチャネルを模索する積極的な銀行に対し、一連の銀行取引が可能であるスマホバンキングアプリを提供していきます。



高いMAU*
※月間アクティブユーザー **84%**
(2023年4月末時点)

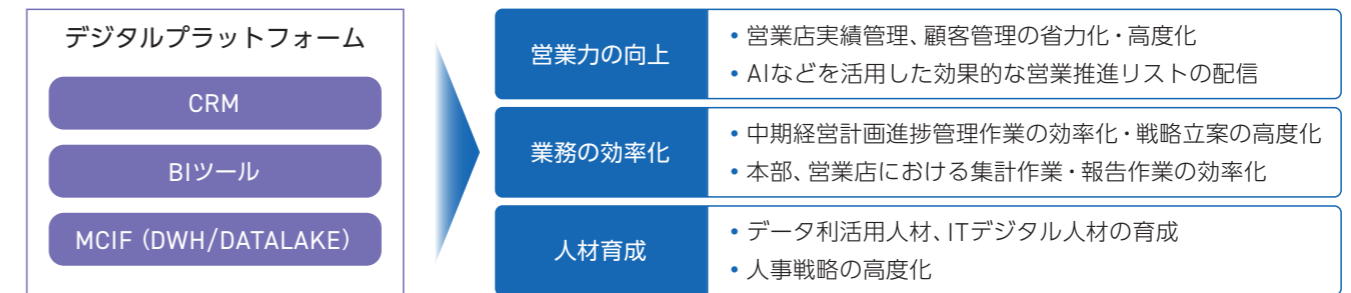
若年層の定着化
10~20代利用率(活性口座) **45%**
(2023年4月末時点)

通帳レスによる
SDGsへの貢献 **Bank 105**

「デジタルプラットフォーム」の構築

中期経営計画「未来へのとびらII」において、行内に散在するさまざまなシステムやデータを可能な限り一元化し、「誰もが」「いつでも」「簡単に」活用できる「デジタルプラットフォーム」を構築することで、営業力の向上や、業務の効率化、人材育成に役立てています。

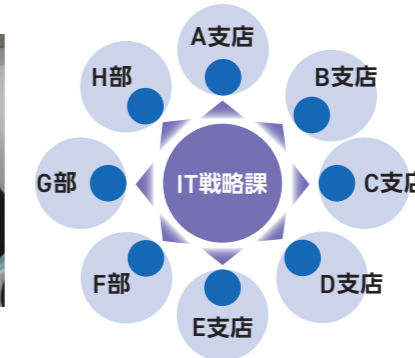
当行におけるデータ利活用の取組みは、DX戦略とあわせて経営企画部IT戦略課が中心となって進めており、本部各部署・営業店を含めた全行的な取組みに順次拡大することで、銀行全体のデータ利活用のレベル向上を図っていきます。



行内での「データドリブン」思考の醸成 (出島戦略)

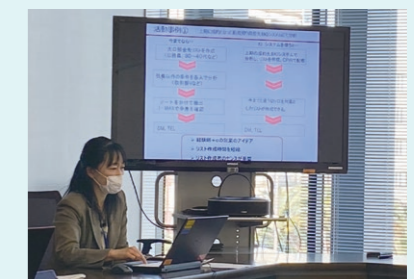
データ利活用やDXに関するマインドを行内で醸成していくため、営業現場の行員などを対象に、自身の通常業務と複業で本部のデータ分析・DX業務を体験できる研修制度「データ利活用中期トレーニー(行内複業型)」を開催し、課題解決のためのデータ活用や、データのビジネス展開に必要なスキルを身に付けられるようにしています。

当研修を継続的に開催していくことで、行内各所に研修経験者を起点に本部と現場のパイプとなる「出島」を築き、中長期的に行内に「データドリブン」な思考を広めていくことをめざしています。



データ利活用トレーニー参加者の声

- 当行のデータ活用に対する考え方を学ぶことにより、データに対する勘所を養えます。またDXに対する知見を深めることにより、ITリテラシーの向上も図れます。
- 自身の想像以上に沢山のデータ利活用ツールがあることを知るとともに、銀行にストックされたデータを自身がまだまだ活用しきれていないと痛感しました。
- 「データ」というキーワードで考え方や活用方法について、ディスカッションすることにより、新たな着眼点や考え方の発見につながりました。
- 分析結果を自店の業務のなかで実際に活用することで、データの取扱いや、データにもとづいた意思決定の仕方について周囲と共有を図れました。



研修結果報告会